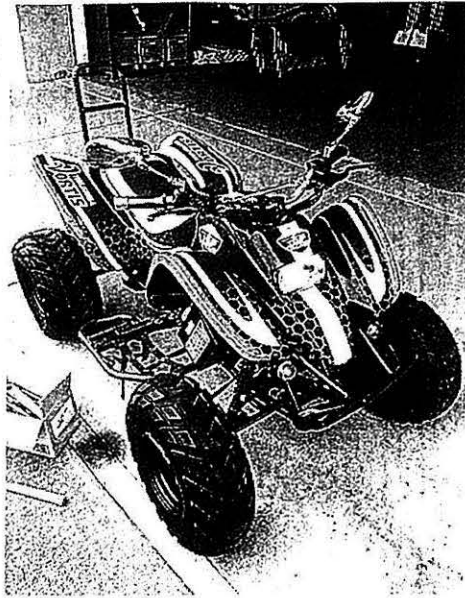


ワークスハウント(徳島市)と工技センター 電動式バギー開発

屋内運搬作業など想定

自動車部品の製造販売などを手掛けるワークスハウント(徳島市)と県立工業技術センターが、電動式の小型四輪バギーを開発した。趣味の乗り物として市販されているガソリンエンジン式のバギーとは違い、電動式は排ガスを出さず静かなため、主に屋内作業での使用を想定。サッカーJ2の徳島ヴォルティスも購入し、今季から活用している。



徳島ヴォルティスが使っている電動式バギー＝鳴門ボカリスエットスタジアム(ワークスハウント提供)

ヴォルティスも試合で活用

電動式バギーは重量約70キの1人乗りで、エンジン式より40〜50キ軽い。付属の充電器を使い、バギーに搭載しているリチウムイオン電池に家庭用電源から充電し、モーターで駆動する。最高時速は50キ。体重60キの人が乗った場合、1回3時間フル充電でアスファルトの舗装路を時速40キで約4時間走行できる。

想定しているのは工場の和訳(ワカ)代表は「環境に優しい上、パワー回りや運搬作業での使用だが、普通自動車免許を持っていけば公道を走ることができる。ヴォルティスはホームゲームのハーフタイムでマスケットキャラクターが乗ったり、試合の準備で人工芝を運んだりしている。電機機械製造の藤崎電機(阿南市)と工技センターが2014年度に開発した電動小型運搬車を基に、車体のバランスや耐久性を改良して独自の電動式バギーを製作した。新車の価格は100万円ほど。中古バギーを改造すると安くできる。4月から一般向けに注文を受け付けている。ワークスハウント

(久保高茂)